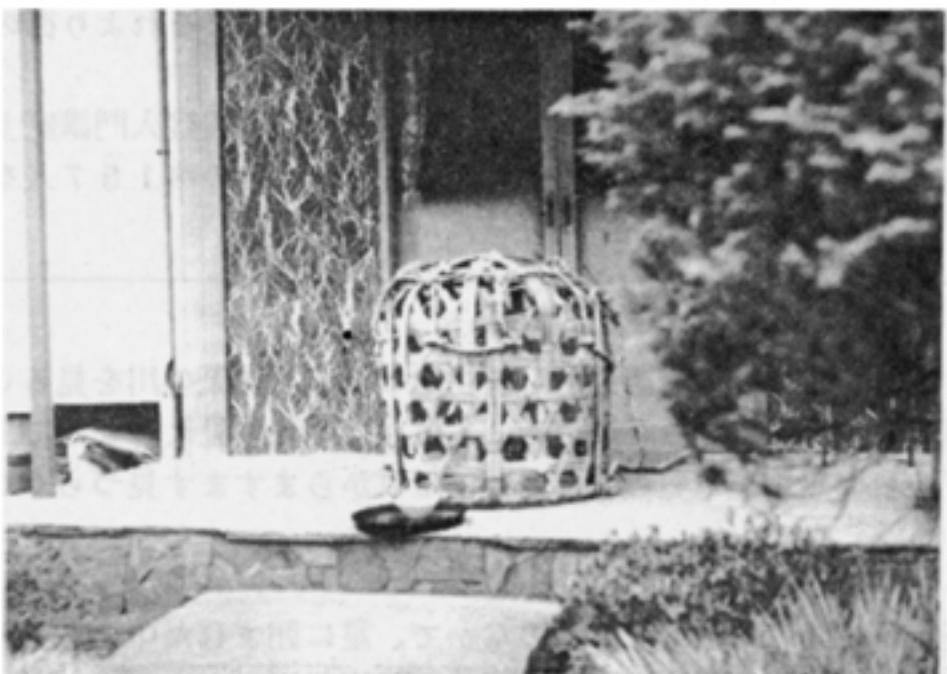


あなたと博物館

HIRATSUKA CITY MUSEUM '91. 2月号

《平塚の民俗行事から》「目一つ小僧がやって来る」



「一つ目小僧をおどかすため、目の多いかごを置く」
(昭和51年2月撮影)

2月8日には、夕刻になると目一つ小僧が家々を訪ねて歩くという話を知っていますか。目一つ小僧あるいは一つ目小僧は、その名の通り目が一つの妖怪で、「この日、外にゲタなどのはきものを出しちばなしにしておくと、ゲタに判を押されてしまう。」とか、「おとなしく静かにしてないと目一つ小僧に災いをかけられる。」などと伝えられています。

目が一つの妖怪なので、各家では、玄関先に目のたくさんあるカゴを置いたり、竹ざおの先に目カゴと呼ぶカゴを

付けて軒先に立てかけ、一晩そのままにして置きました。写真のように、目がたくさんあるカゴが置かれていると、目一つ小僧はこれを見て驚き、恐れて退散してしまうというわけです。この日の晩は、はきものを家の中にしまい込み、小豆ご飯と大根・豆腐・小豆などを煮たオコト汁を作り、玄関先のカゴの前に供え、みんなで頂きました。

目一つ小僧の存在などは、今では信じている人はいないと思いますが、この妖怪は師走八日という12月8日にも各家を訪れると言われています。12月8日の目一つ小僧には、もう一つ伝承が加わっています。それは、「目一つ小僧は、この日、各家々を廻り、子どもたちの1年間の悪事を帳面に記録し、2月8日に再び来るからそれまで預かってくれといって道祖神に渡して去っていく。帳面を預かった道祖神は困ってしまい、思案した結果、自分の家が火事で焼け、一緒に帳面も燃えてしまったと言えば目一つ小僧も許してくれるだろうと考え、1月14日にドンド焼きで家を焼く。」と伝えられています。目一つ小僧の来訪は、行事の由来を説く伝承にもなっているわけです。

さて、2月8日、12月8日に訪れる目一つ小僧は何かと言えば、これは神靈が零落して妖怪の姿となったものと言えます。多摩川流域では、同じ日にミカエリ婆さんとかミガワリ婆さんという妖怪が訪れるといわれています。なんらかの神が、姿を変えて人の前に現われるというのは、日本の神信仰の特色の一つです。よく知られた秋田のナマハゲなども、神が鬼の姿になって人前にあらわれる行事です。

なお、2月8日は針供養の日でもあります。折れた針を豆腐などにさして淡島様に供えます。平塚では下島の靈山寺境内に淡島神社が祭られています。

全国星空継続観察（スターウォッチング・ネットワーク）の結果から

1988年（昭和63年）から環境庁が始めたスターウォッチングネットワークは、「大気の果たしている役割やその保全に対する国民の意識を高める」ことを期待して全国的に進められている大気の観察活動です。

観察は、夏と冬に行います。観察内容は、日没後2時間後くらい（夏は、8時。冬は、6時半）に、①天の川が目で見えるか、②双眼鏡を使って見える暗い星は何等か、を調べます。また、観察する星の近くを写真撮影し、後日フィルムを調べて空の明るさを測ります。今年度は、全国で204の施設が参加しています。

この調査によって、大気汚染を調べる指標にする目的があったようですが、それより街の明りが星を見るうえでどれだけ影響があるかを知ることになりました。

博物館では、博物館の屋上を観察場所に、「天体観察会」「夏休みの自然観察入門講座」「星を見る会」などで継続して調査に参加してきました。観察に参加された方はのべ157人を数えました。

☆天の川は見えない

夏の天の川は七夕の舞台ですが、今までの観察結果から博物館の夜空では天の川を見ることはできませんでした。冬の天の川は夏に比べてずっと淡いせいもあり、やはり見えませんでした。特に夏は野球場のナイターなど、夜間照明があちこちに増え、これからますます見づらくなっているようです。

☆双眼鏡で8.6等星が見えた

観察する対象は、夏はこと座、冬はすばる星です。そのなかで、星に囲まれた中にある暗い星のうち何等級の星まで確認できたかを記録します。最も暗い星の確認は夏冬ともに8.6等星まででした。

☆全国との比較

国内で最も星がよく見えるのは北海道や宮崎県の町や村で、12等星が確認されています。平塚は街の規模としては中都市に分類されますが、その中では平均的な明るさのようです。また写真より測定された空の明るさ比較では、大都市に近い明るさであることがわかりました。

皆さんの家のまわりでは、天の川は見えますか？

【下の表の見方について】

街のネオンや灯によって、星が見えにくくなっています。そこで、撮影したカラースライド写真から算出した等級を表にすると以下のようになります。数字が、小さいほど夜空は明るく、星は、見えにくいことになります。平塚市博物館のデータにも注目して下さい。

同一場所での夜空の明るさ比較

| 県名 | 市町村名 | 観察場所 | スライドから算出した等級 | | | | |
|------|------|-------------|--------------|--------------|-------------|-------------|-------------|
| | | | 昭和63年度 夏期 | 昭和63年度 冬期 | 平成元年度 夏期 | 平成元年度 冬期 | 平成2年度 夏期 |
| 東京都 | 中野区 | 中野文化センター | 16.3 | 16.6 | 16.8 | 16.0 | 16.5 |
| 神奈川県 | 平塚市 | 平塚市博物館 | 19.5 | 17.7 | 19.4 | 17.4 | 19.6 |
| 静岡県 | 浜松市 | 浜松市天文台 | 17.0 | 21.1 | 21.2 | 21.2 | 20.6 |
| 岡山県 | 大佐町 | 大佐町市民グランド | 21.5 | 22.2 | 21.0 | 21.8 | 21.6 |
| 佐賀県 | 伊万里市 | 深山運動公園 | 21.0 | 20.8 | 19.3 | 21.6 | 21.6 |
| 宮崎県 | 高崎町 | 鉢ヶ峯ふれあいの丘広場 | 21.6 | 22.1 | 21.8 | 21.9 | 21.4 |
| | | 平均 | 19.5 | 20.1 | 19.9 | 20.0 | 20.2 |



◇◇満員でした！「ナチュラリスト講座」◇◇◇◇

先日、ナチュラリスト講座についての問い合わせがありました。この講座は、湘南の動植物について調査・研究をされている方にいろいろな話題を提供して頂く講座です。

第16回目になる今回は、「雑木林と人々のくらし」というテーマで県林業試験場の中川重年氏にお話を伺いました。合わせて35名の皆さんに参加され、講堂は、いっぱいになりました。身近な雑木林が、くらしの中でどんな役に立っていたのか、具体的なお話があり、少なくなりつつある雑木林にあらたな愛着が湧きました。



一軒の家は、いろいろな種類の木が使い分けられ、建てられています。エッジは、フジやクスギ。便所は、クスノキとかいうふうに。だから家を作るのは、今よりもっと興味深いものだとかもしれませんね。

「おじいさんは、山へしばかりに行きました。」
昔話によく出てきますね。おじいさんは、近くの山の雑木林に木を取りに行ったりしていました。
昔から、雑木林は、私たちの生活と深くかかわっていましたと思います。

今年度、予定されている講座は、以下の通りです。

第17回 2月9日（土）「クモの映像を撮る」吉田嗣郎氏（ネイチャープロ）

- ・映像を撮る目から見たクモの生活。撮影して初めて分かった生態など。ネコハエトリやミズグモについての映像を見ながら。

第18回 3月9日（土）「都市化の中の野鳥」浜口哲一（平塚市博物館）

- ・どんな鳥が生き残っているか。その鳥たちのくらしづくりについて。

（2回とも時間は、午後6時～8時。場所は、博物館講堂。参加希望者は、直接会場へ。）

《自然の新聞「ゆりのき」から》

博物館の野外行事である「土曜観察会」（毎月第2、第4土曜日実施）では、身近な野山で観察したことを新聞にしています。名前を博物館の庭にある木の名前から「ゆりのき」と名づけました。その一部をご紹介します。なお、「ゆりのき」は、博物館の受付でも配布しています。

ヤマセミ

11/25(日)花水川でヤマセミを見た。

勢いよく水平に シー・ツ、シー・ツヒ 飛んでいた。

大きさは ハト位だった。 ちょうど、木にヒまた

とのシルエットを見て感じたことは

①白と黒まるで やぶ"虫立"のようだ。

②わりに、都会的スマートさがあって 今の若者を
思かせる「カッコツケマン」だ。→ おしゃれを感じ
(特に頭部スタイルは現代的)



以上

行事案内

2月の予定

| | | |
|--------------------------------------|---|---|
| 3 | 日 | 漂着物を拾う会※8時平塚海岸 |
| 9 | 土 | 古文書講読会 石仏を調べる会 土曜観察会（新聞作り） ナチュラリスト講座 「クモの映像を撮る」 |
| 16 | 土 | 平塚の空襲と戦災を記録する会 |
| 22 | 金 | 星を見る会「月と木星」 |
| 23 | 土 | 古文書講読会 石仏を調べる会 土曜観察会 |
| 24 | 日 | 相模川を歩く会 (樋原～上野原) |
| 3月の予定 | | |
| 3 | | 漂着物を拾う会※8時平塚海岸 |
| 9 | 土 | 古文書講読会 石仏を調べる会 土曜観察会 ナチュラリスト講座 「都市化の中の野鳥」 |
| 10 | 日 | 漂着物を拾う会（場所等未定） 体験学習（実体鏡作り） |
| 16 | 土 | 平塚の空襲と戦災を記録する会 天体観察会（まとめ） |
| 20 | 水 | 星を見る会 「春の星座と惑星を見よう」 |
| 23 | 土 | 古文書講読会 石仏を調べる会 土曜観察会（新聞作り） |
| 24 | 日 | 相模川を歩く会 (上野原～藤野) |
| 3/3まで プラネタリウム「時間をさかのぼると」 | | |
| 2/27まで 寄贈品コーナー 「平塚の地盤」－ボーリング資料から－ | | |
| 3/1～3/30 寄贈品コーナー 「平塚海岸の漂着物」 | | |
| 3/9～5/9 プラネタリウム「南十字星を追って」 | | |
| 3/16～4/28 特別展「タンポポと春の花」 | | |

■星を見る会

月と木星を望遠鏡で観察します。

日時：2月22日（金）

午後6時～8時

集合：1階科学教室



観察場所：博物館屋上

参加：どなたでも自由に



■寄贈品コーナー「平塚の地盤」

－ボーリング資料展－

学校などの公共施設、トンネル、工場の深井戸からのボーリング資料（地下の土質資料）を展示しています。

期間：2月27日まで

入場：自由

■寄贈品コーナー「平塚海岸の漂着物」

博物館行事である「漂着物を拾う会」で収集した貝殻・海草などを展示します。

期間：3月1日～3月30日

入場：自由



■体験学習「簡易実体鏡」を作ろう

板目紙やレンズを使って、簡単な実体鏡を作ります。風景写真や図形を立体的に見ることができます。

日時：3月10日（日）

午前10時～午後3時

材料費：600円程度になります。決定の後、参加者にお知らせします。

申し込み：希望者は、往復はがきで申し込んで下さい。（2月25日まで）

持ち物：後日、参加者にお知らせします。